



## 学生相談室ニュース vol.12 (2021年8・9月号)

暑い日が続いていますが、みなさんいかがおすごしでしょうか。前期試験も終わり、長めの夏休みを謳歌!…といきたいところですが、今年の夏もコロナ禍で、夏休みらしいことをするのは難しそうです。となると、冷房の効いた部屋でゆっくりすごすことが多くなると思います。適度な運動も大事ですが、映画を見たり、読書をしたり、何もせずゴロゴロしたり、日々の疲れを癒す時間をとることも大切です。

そこで、ゆったり読むこともできるし、あれこれ考えながら読むこともできて、不思議なファンタジーの世界にひたれるマンガを再び紹介してみたいと思います。



(果ての星通信, メノタ, 主婦と生活社)

『果ての星通信』はウェブ連載をしていたマンガで、今年のに最終5巻が発売されました。“次にくるマンガ大賞”に

ノミネートもされています。公式サイトよりあらすじを引用します。——大学を卒業し、恋人との世界旅行を計画していたロシア人青年マルコ。プレゼントを用意して弾む気持ちで旅の準備をしていると突如、彼の体に異変が起き見知らぬ土地に転移してしまう。その土地で10年もの間、ある重要な”任務”をこなすことになったマルコの異星人交流譚。——

このマンガは一言でいうなら、(1巻の帯にもありますが)“宇宙転移SF”です。ある日突然宇宙の果てに飛ばされたマルコは、日常を奪われた理不尽に憤り、恋人を残してきた苦悩や罪悪感に苛まれ、様々な体験を経て10年をすごします。

表紙のカラフルさや何だかよくわからないモノ(?)にも表れていますが、このマンガにはファンタジーが溢れています。多種多様な宇宙人に、それぞれの文化があり、ただ読むだけで小さな頃の空想を思い出させてくれる面白さがあります。

そうした異世界・異文化に触れることで、マルコは“目や腕や足が2つずつ”といった“地球人”の特徴が、宇宙のスタンダードでないことに気づきます。自分の思う“普通”が誰かにとっての普通ではないのかもしれない…じっくり読むことで、物事の見方や捉え方を改めて考えさせてくれる側面もあるように思います。

全5巻と手に取りやすく、それでいてじっくりと読み込める作品です。夏のお供にいかがでしょうか。

